

9 自立活動の指導形態・指導内容・グループ編成

佐島 毅

9-1 自立活動の指導形態

表9-1は、自立活動の指導をどのような指導形態で行っているかについて示したものである。回答は複数回答によるものである。

個別指導を行っているのは全体で76.3%、小グループでの指導は51.8%、学級単位での指導が41.2%、学部単位での指導が21.2%となっており、個別指導の割合が最も高い。

学校種別による特徴については、以下のような点があげられる。

- ①盲学校では、個別指導の形態が96.6%であり、他の学校種よりも高い。盲学校の在籍児童・生徒の障害の状態が多様で重複障害の比率が高いこと、および児童・生徒数が少ないことから個別に対応するニーズが他の学校よりも高いと考えられる。
- ②聾学校は、学級単位での指導形態を実施している割合が80.3%と高い。その要因として、聾学校は重複障害児童・生徒の割合が低く障害の状態が比較的均一であることから、学級単位での指導が可能であると考えられる。
- ③知的障害養護学校では、いずれの指導形態も全体の割合に比して低くなっている。
- ④肢体不自由養護学校では、個別指導、小グループでの指導、学級単位での指導の形態においていずれも全体の割合に比して高い。これは、自立活動を主とする教育課程による重度・重複障害 児童・生徒の在籍率が高いことが影響していると考えられる。
- ⑤病弱養護学校では、学部単位での指導が他の学校に比べて高い。

9-2 自立活動の指導形態別の平均週指導時数

表9-2は、自立活動の指導形態別の平均週指導時数を示したものである。全体では、個別指導が平均週

4.6時間、小グループでの指導が3.4時間、学級単位での指導が5.4時間、学部単位での指導が2.4時間となっており、学級単位での指導の平均が最も高い。ただし、これは学級単位での指導形態をとっている学校の平均であり、有効回答数は個別指導の形態が最も多いことから、実数として多いわけではない。

指導形態別に学校種を比較すると、肢体不自由養護学校における個別指導の時数が最も高い。

9-3 小グループの編成基準

小グループを編成する場合の基準について、複数回答でたずねたところ、「知的発達に類似した子どもからなる集団」が最も高く61.6%であった。

学校種別による特徴については、以下のような点があげられる。

- ①盲学校では、どの編成基準も他の学校種と同じか高い傾向が見られた。障害の重度・重複、多様化の顕著な盲学校の実態を反映していると考えられる。
- ②聾学校は、「年齢が類似した子どもからなる集団」による編成が多く、自立活動の指導形態において学級単位での指導の割合が多いことと一致する結果となっている。
- ③知的障害養護学校と肢体不自由養護学校では、「運動機能が類似した子どもからなる集団」の割合が高い。
- ④病弱養護学校では全体で最も高い「知的発達が類似した子どもからなる集団」の割合が25.4%と他の学校種に比して著しく低い。また、「その他」が63.5%と高く、知的発達や運動発達よりも慢性疾患の特性から集団編成をしているのではないかと予想される。この点については指導内容との関連から検討する必要がある。

表9-1 自立活動の指導形態

		個別指導	の小グループ	指学級	指学部	その他	有効回答数
			指導	単位での	単位での		
合計	実数	514	349	278	143	105	674
	%	76.3	51.8	41.2	21.2	15.6	
盲学校	実数	56	27	9	6	5	58
	%	96.6	46.6	15.5	10.3	8.6	
聾学校	実数	51	31	57	20	6	71
	%	71.8	43.7	80.3	28.2	8.5	
知的障害養護学校	実数	233	154	105	47	50	325
	%	71.7	47.4	32.3	14.5	15.4	
肢体不自由養護学校	実数	119	88	78	28	21	141
	%	84.4	62.4	55.3	19.9	14.9	
病弱養護学校	実数	55	49	29	42	23	79
	%	69.6	62	36.7	53.2	29.1	

表9-2 自立活動の指導形態別平均週指導時数

		個別指導	の小グループ	指学級	指学部	その他
			指導	単位での	単位での	
合計	平均週指導時数	4.6	3.4	5.4	2.4	3.8
	有効回答数	420	287	215	104	57
盲学校	平均週指導時数	3.4	2.9	4.1	2.3	2.0
	有効回答数	46	23	7	3	1
聾学校	平均週指導時数	2.3	1.9	2.0	1.1	2.0
	有効回答数	39	22	44	10	3
知的障害養護学校	平均週指導時数	4.6	3.1	4.5	3.1	4.3
	有効回答数	197	128	83	34	20
肢体不自由養護学校	平均週指導時数	6.0	5.1	9.3	2.8	3.0
	有効回答数	95	73	61	27	16
病弱養護学校	平均週指導時数	4.6	2.0	5.5	1.7	4.3
	有効回答数	43	41	20	30	17

表9-3 小グループの編成基準

		知的発達	視力・聴力	運動機能	年齢が類似	その他	有効回答数
		が類似した子ども	が類似した子ども	が類似した子ども	した子ども		
合計	実数	314	38	218	176	127	510
	%	61.6	7.5	42.7	34.5	24.9	
盲学校	実数	25	18	12	11	12	38
	%	65.8	47.4	31.6	28.9	31.6	
聾学校	実数	31	15	2	26	15	56
	%	55.4	26.8	3.6	46.4	26.8	
知的障害養護学校	実数	162	4	115	82	39	235
	%	68.9	1.7	48.9	34.9	16.6	
肢体不自由養護学校	実数	80	1	69	44	21	118
	%	67.8	0.8	58.5	37.3	17.8	
病弱養護学校	実数	16	0	20	13	40	63
	%	25.4	-	31.7	20.6	63.5	